



菅谷眼科医院
SUGAYA EYE CLINIC

院内だより

Vol.78

令和7年9月

眼科領域における新しい治療

日々、医学は進歩していきます。基礎研究、臨床研究を重ね、ある手法が有効であると実証されると日本でも新しい治療法として認可されるようになります。今回は、今後臨床現場で利用可能な3つの新規治療をご紹介します。

1. 小児近視進行抑制用コンタクトレンズ MiSight® 1day

アメリカの会社であるコーパービジョン社が開発した8歳から12歳の初めてコンタクトレンズを使用する小児を対象に、FDAで認可された近視進行予防効果のあるレンズです。8月に厚労省に認可されたばかりで、値段やどのように販売していくのか、今後詳細が判明したらお伝えします。小児近視進行予防にも力を入れている当院としても、今後取り扱っていきたいと思います。



2. 地図状萎縮（加齢黄斑変性症）に対する治療薬

加齢黄斑変性症の中でも**萎縮型**といわれる地図状萎縮を伴う疾患に対する進行予防薬とされております。硝子体注射という手法で眼内へ投与される薬剤となり、2023年にIZERVAY®として、FDAで承認にされました。アステラス製薬という日本企業が販売します。適応となる患者数は多くないですが（9：1で日本では滲出型が多い）、今までに有効な治療薬のなかった疾患なので、患者にとって一筋の光明となる可能性があります。



3. 緑内障新規点眼薬（セタネオ®点眼液0.002%）

参天製薬から新しい薬理機序をもった緑内障点眼液が近々、販売使用できるようになります。房水の流出経路である主経路と副経路のダブルに作用する薬剤となります。今後、当院でも適応のある方に使用していくことになると思います。詳しい情報は診察時に提供したいと思います。